



2017年度 語りの教育的活用に関 するアンケート 結果

認定NPO法人

健康と病いの語りディペックス・ジャパン

射場典子

健康と病いの語りウェブサイト

Database of Individual Patient Experiences

ディベックス・ジャパン | 健康と病いの語り

 [はじめての方へ](#)  [お問い合わせ](#)



認定NPO法人 健康と病いの語り ディベックス・ジャパン
がんや認知症の体験談を動画や音声でお届けしています

 [「健康と病いの語り」
とは](#)

 [ディベックス・
ジャパンについて](#)

[会員専用ページ](#)

健康と病いの語り

認知症の語り
dementia

乳がんの語り
breast cancer

前立腺がんの語り
prostate cancer

大腸がん検診の語り
bowel screening

臨床試験・治験の語り
clinical trial

慢性の痛みの語り
chronic pain

健康と病いの語り

—— 健康と病いの語りデータベース・DIPEXとは？
患者ひとり1人の病気体験のデータベース



Database of **I**ndividual **P**atient **E**xperience
データベース ひとり1人 患者 体験



アンケート概要

- 対象：ディベックス・ジャパンのウェブサイトまたはメール等で語りの教育的活用の申し込みをした人
- 方法：メールでアンケート用紙を送付し依頼。語りを活用後2週間を目途に返送してもらった。内容は、授業・研修の概要、受講者の概要・反応、データベースの有用性・活用しやすさ等
- 2017年度の申し込み件数：52件
- アンケート回収数28件（回収率53.4%）

図1 活用申込者の目的別割合

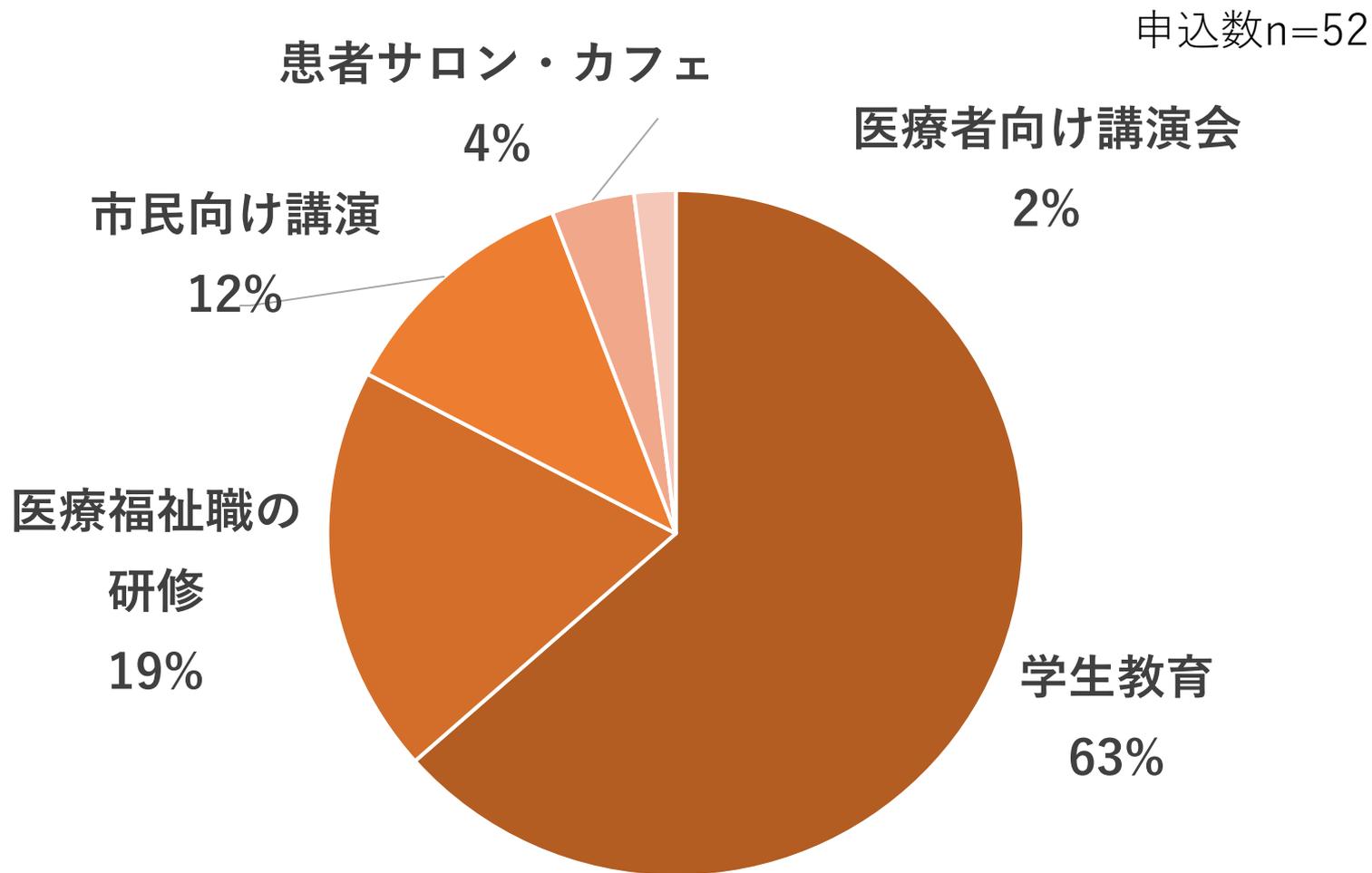


図2 活用希望ウェブページの申込状況

申込数n = 52 複数回答可

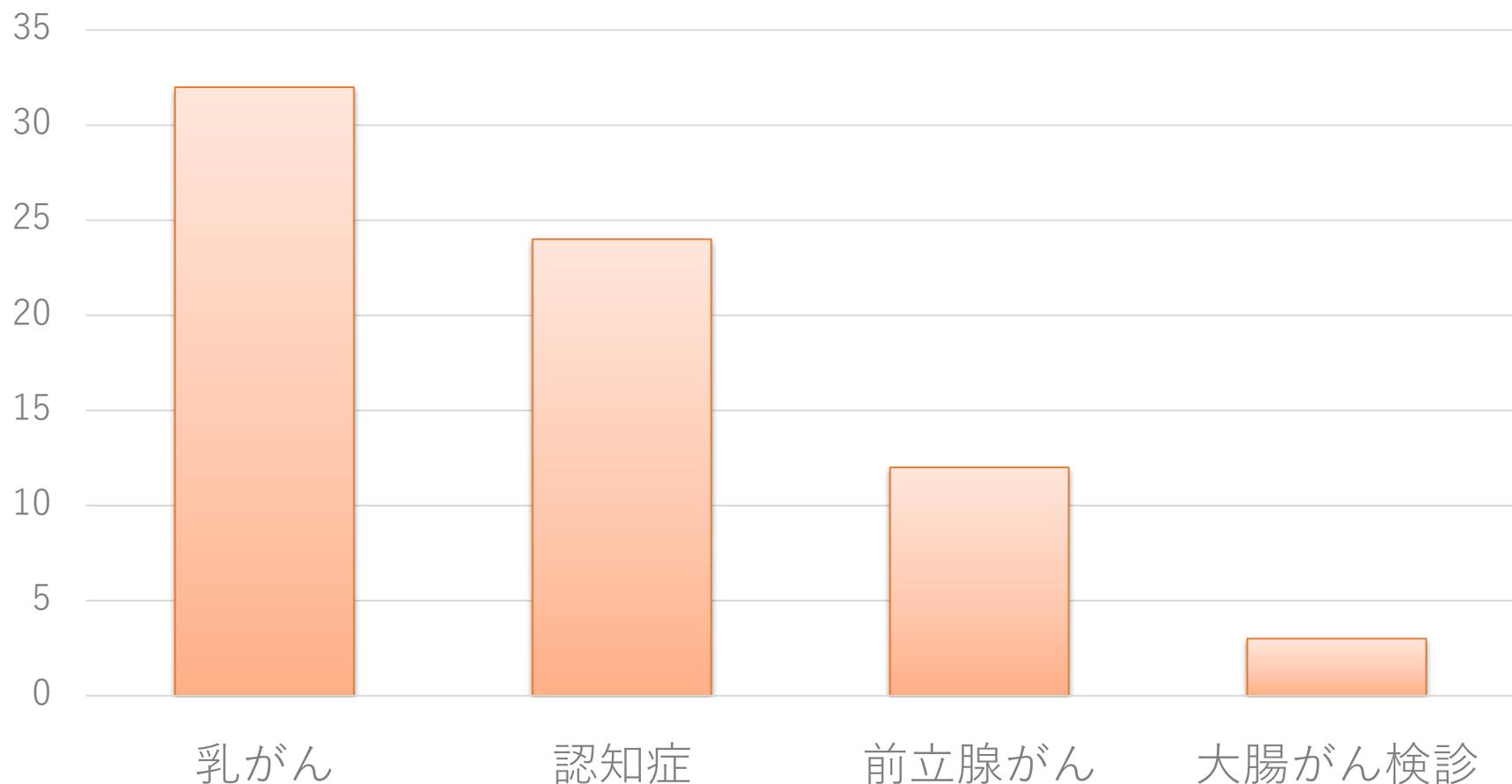


図3 学生の専攻別の活用申込状況

n=33 複数回答可

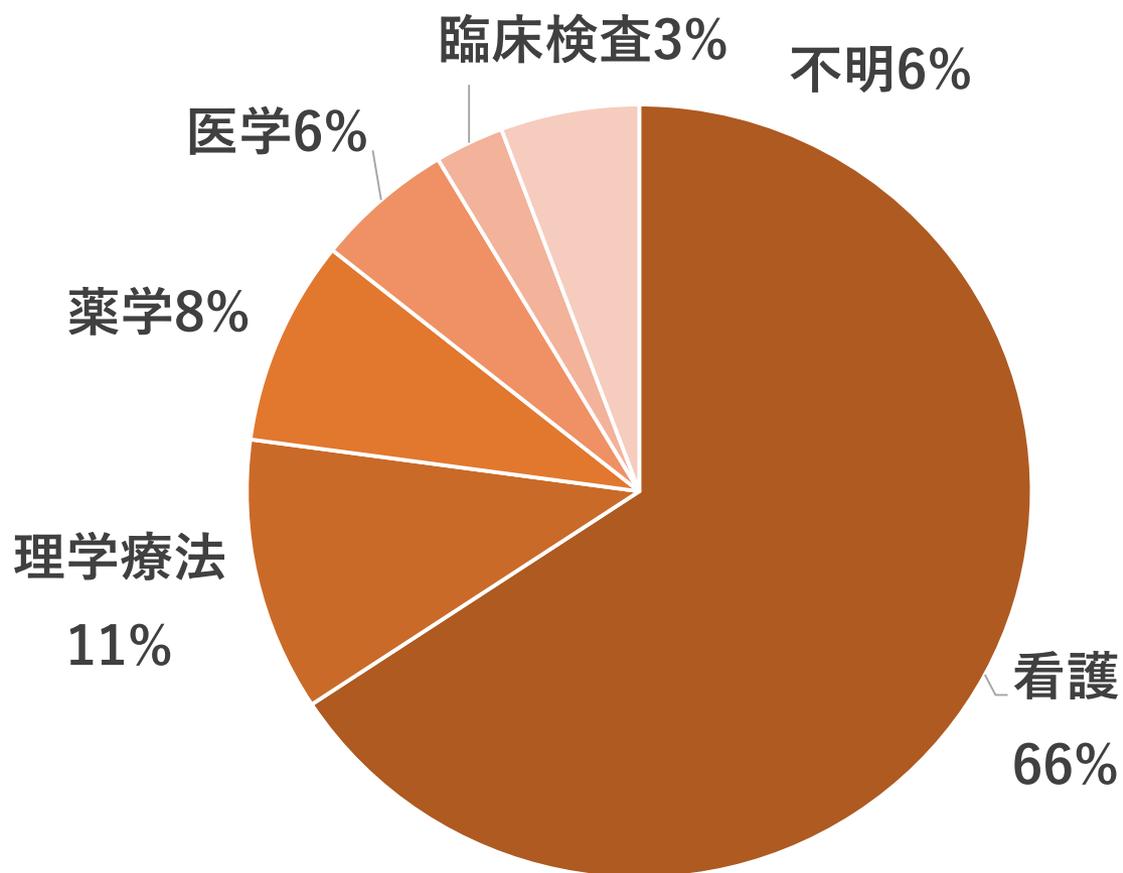


図4 受講生の学年別

アンケート回答 n=28

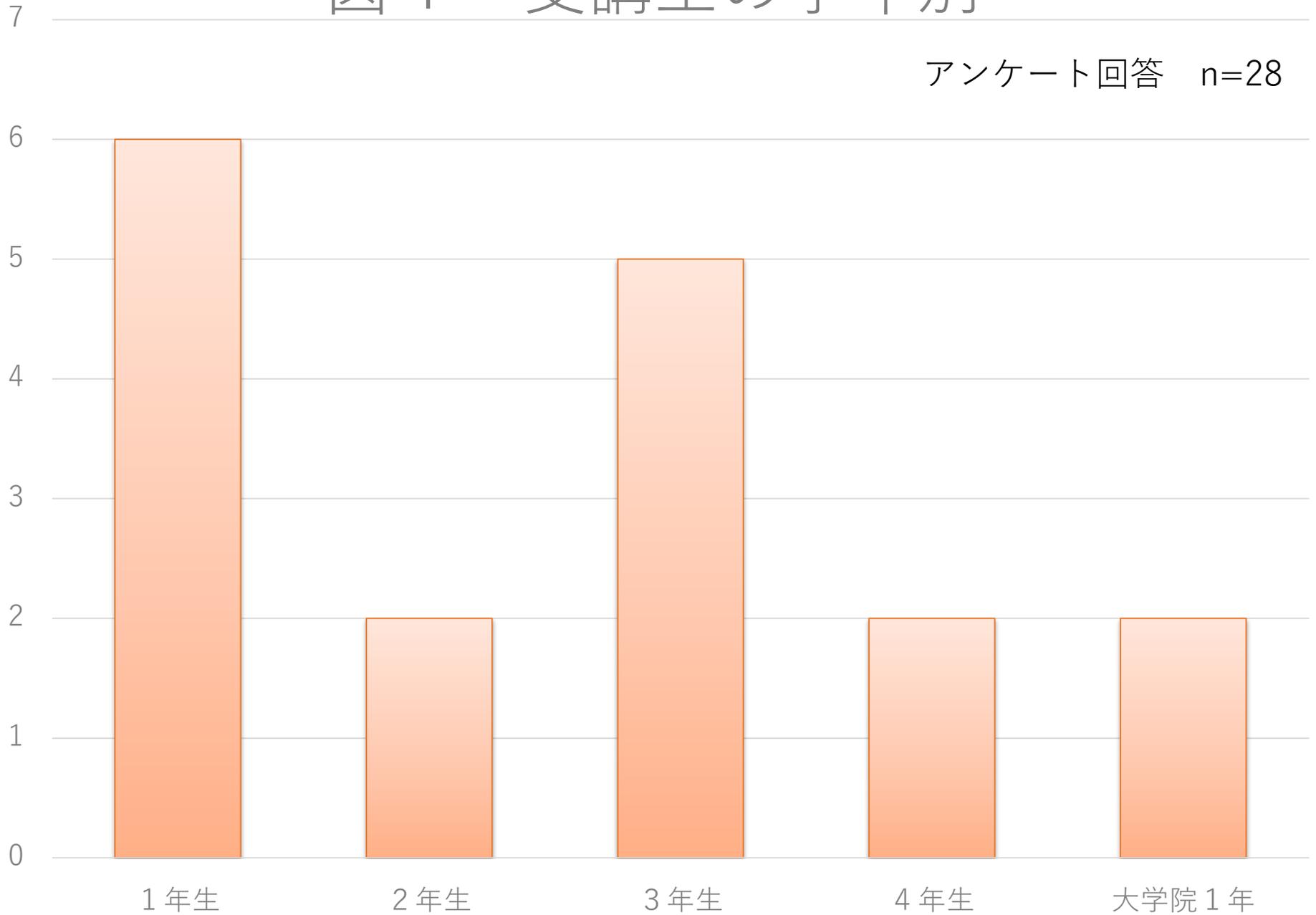


表1 語りを活用した科目

| | |
|-------------|------------------------------|
| 社会学 | 成人看護学総論 |
| 医療倫理学 | People Centerd Care Nursing論 |
| 医療コミュニケーション | リハビリ看護 |
| 医療キャリアデザイン | 在宅看護論 |
| 看護情報学 | 慢性看護論 |
| 看護リテラシー | 看護トピックス |
| 看護研究 | エンドオブライフケア |
| 保健学研究方法 | がん患者の家族ケア |
| チュートリアル教育 | 認知症看護 |

表2 認知症の語りの活用

アンケート回答28件より

専門職向け研修

介護福祉士実務者研修

訪問介護士研修:認知症・高齢者の心のケア

看護職員認知症対応力向上研修:これからの認知症の地域支援について

認知症介護実践者研修

認定看護師教育課程フォローアップ:認知症を持つ患者の意思決定支援

一般向け講演・講座

認知症サポーターステップアップ講座

婦人大学:認知症高齢者の看護

認知症について考える

認知症予防

活用の理由

アンケート回答28件より

• 患者理解（心理・日々の生活や仕事・病いと向き合う…）

- 患者さんはどんな思いをもちながら、今まで通りの仕事を続けているのか知る
- 家族内で生じている問題や体験、家族への思い、家族自身が感じている思いなどの心理や体験の理解
- 患者さんにとってなぜ信頼できる情報が必要とされているのか
- 補完代替療法についての患者の考え、行動を知る
- 乳がん患者さんは精神的にどのような思いを持っているのか
- 認知症の方やその家族がどのように日々考えているのかを具体的に理解するため

• 患者視点で考える医療者のあり方

- 患者への理解を深めるとともに、医師のあり方について考える
- 病むことがどういうことなのか、その思いに耳を傾け、患者の立場に立ってどのような配慮が求められているかを考える。

• 方法論を学ぶための素材として

- 質的研究方法を学ぶために語りのデータのコード化を行う

表3 活用の方法

アンケート回答 n=28

| 方法 | 件数 |
|--------------|----|
| グループディスカッション | 19 |
| 視聴後課題実施 | 2 |
| 視聴后感想記入 | 2 |
| 視聴のみ | 4 |

アンケート結果（その他）

- 受講者数の総計は2263名。（1回の授業の受講者は3-280名）
- 活用した語りのクリップ1-18と幅広い
- 19名の教員が90分授業1コマで活用。最大7コマでの展開あり
- 有用性の評価は5段階で平均4.46
- 使いやすさの評価は5段階で平均4.07

学生の反応・学び 1

• 新たな視点に気づく

- 机上だけでは気づけなかった視点を気づくことができたり、考えが及んでいなかったことに気付くこともあった
- 声のトーンや表情からその人の感情を感じ取ることができると思った

• 患者理解の深まり

- 仕事をしている中で病気になるということがどれほど考えてやらなければならないか、気を使うことか、仕事をもちながら治療をすることの責任感の強さを感じていた
- がん患者さんが前向きで脱毛しても楽しむ姿勢があると気づいていた

• 医療者のあり方を学ぶ

- 病名の告知や治療の説明に関する語りを聞いた後は、患者と家族が受ける衝撃の大きさを知り、告知の際には慎重に言葉を選び細かく配慮する必要があることに気づいていた
- 患者さんが医学的な問題だけではなく多様な問題を抱えること、それに寄り添うことも大切だと学んでいた

学生の反応・学び 2

• 自分の看護の振り返り

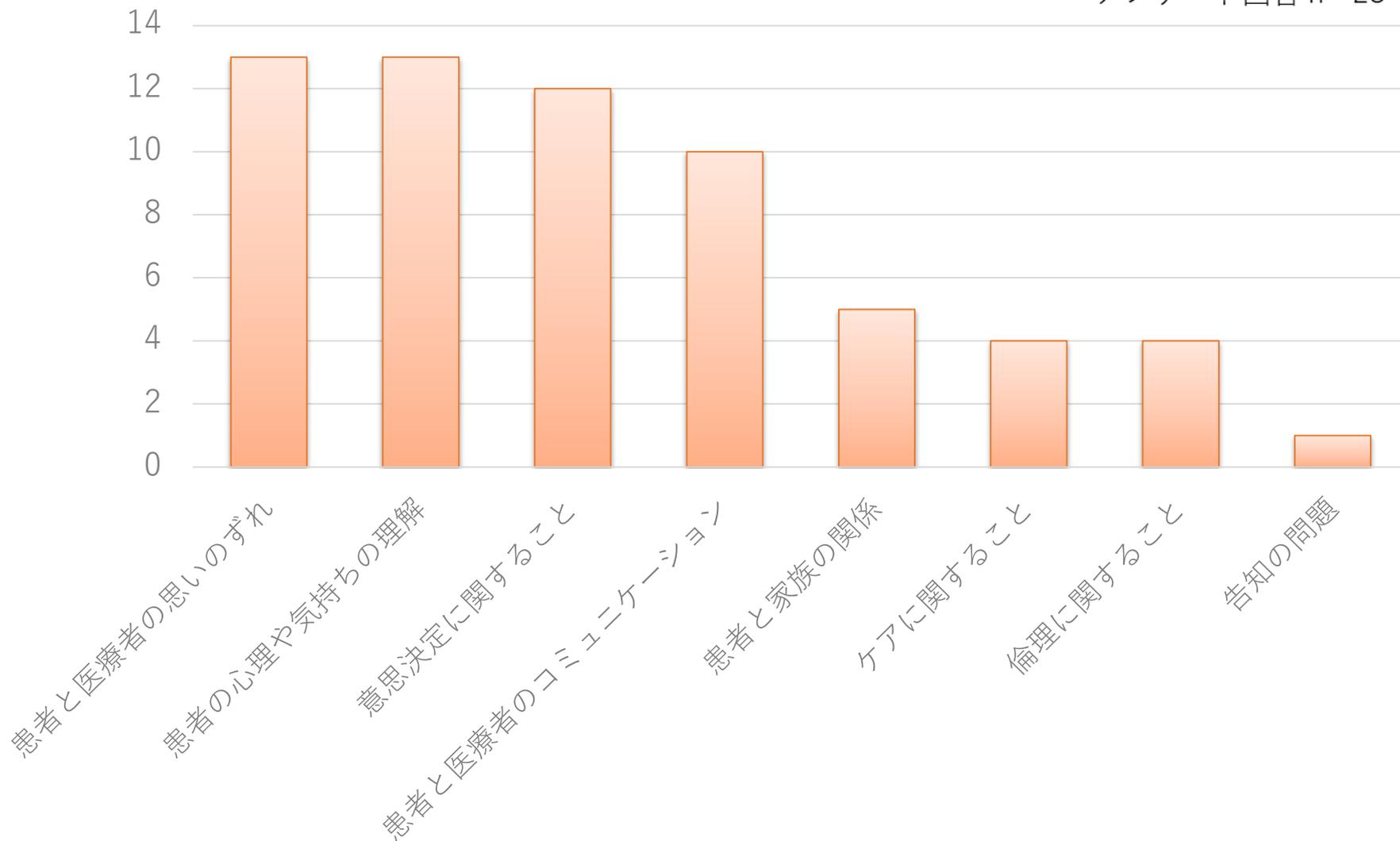
- 自分の看護を振り返り「家族全体に目を向けていなかった」「あのような語りを臨床の場で聞いていかなければいけない」「家族を個人、2者関係、家族全体として捉えることの重要性」の気づきがあった

• 受け身でない学習態度

- 患者さん自身の動画を取り入れたことで、「学生自身が、自分の立場で、患者さんの声を聴いて、そこから何かを感じ取る」という、授業としても受け身になりえない効果が得られた
- 患者の語りを聴くことができてよかった。自分が目の前で聞いていたら何て答えたらよいのかわからないという学生の反応が見られた
- 話に引き込まれて、しっかりと見ており、その後のディスカッションも盛り上がっていた
- 本音を聞くには臨床でどのような聞き方が必要だろうか考えた、臨床でこじ開ける必要はないかもしれないがここで知れてよかったという感想があった

図5 教材化を希望するテーマ

アンケート回答 n=28



2017年度 活用している大学

(公表を許可した施設のみ)

- 鳥取大学医学部保健学科
- 名寄市立大学保健福祉学部看護学科
- 北里大学医療衛生学部医療検査学科
- 東京医療保健大学医療保健学部看護学科
- 日本医科大学医学部医学科
- 自治医科大学看護学部
- 聖路加国際大学看護学部
- 帝京平成大学ヒューマンケア学部看護学科
- 東京医科大学医学部看護学科
- 東京理科大学薬学部
- 昭和薬科大学